

## 0. はじめに

- 2月14日に手術を受け、3月16日退院しました。手術で、人工呼吸器をしばらく付けていたのが、声帯に障り、声ははっきり出ません。はっきり出ない小さな声をスピーカーで拡声し、お話します。お聞き苦しいことを、なにとぞご容赦ください。
- 昨年までの成果から極端に大きな変更はないのですが、背景を十分お話しする時間が足りません。合わせてご容赦願います。

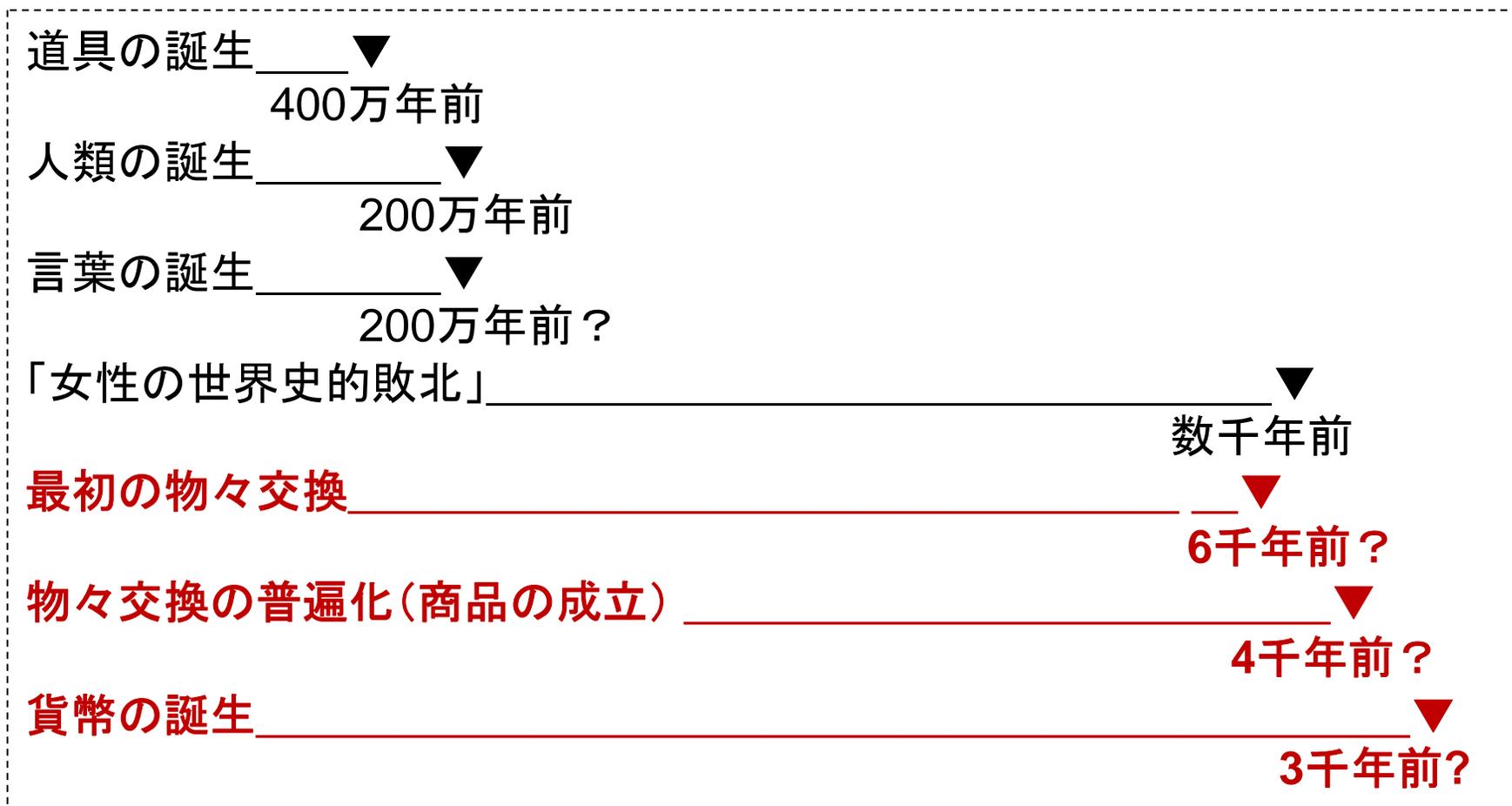
# 物々交換誕生の論理

— 矛盾モデル拡張による弁証法論理再構築のための —

- |                    |        |
|--------------------|--------|
| 1. 物々交換            | 03- 05 |
| 2. 問題1: なぜ奇蹟は起こったか | 06     |
| 3. 問題2の解: 提案する矛盾概念 | 07- 12 |
| 4. 結論と謝辞           | 13     |
| 5. 参考文献            | 14     |

# 1. 物々交換の歴史は意外に最近

100年という年月を思い浮かべることができ、そのわずか60倍が6千年。



# 1. 物々交換という奇蹟の制度

- 1. 自分の前にあるものが自分の共同体のもの、相手の前にあるものが相手の共同体のものという認識。
- 2. 自分の共同体のものを相手に与え、相手も同じことを同時にするという予定像。
- 3. いつ、どこで、どれだけの量を受け渡すか
- これら、両者のことを考えた共同観念を別々の共同体の代表が共有。

# 1. 物々交換成立の二つの問題

## 問題1. なぜ物々交換という奇蹟は起こったか？

自分、相手という区別が明確にはなく、所有概念もなかった時代に、なぜ、自分たちも相手も対等に得をする、所有状態入れ替えという奇蹟が起こったか？

## 問題2. 従来の矛盾概念では対立項の生成段階を扱えない

マルクスは、被交換物が商品になっている状態から資本論を書いた。使用価値と(交換)価値という対立項がある状態から、その自律矛盾の展開によって貨幣が誕生するのが資本論第1章である。しかし彼の矛盾概念では、対立物の生成を扱えない。

## 2. 問題1: なぜ奇蹟は起こったか

外部  
運動

1. 強奪の人的損失をなくしたい要請
2. 分業による生産力の増大要請
3. 相手を思う気持ち(恋?)

仮説:「女性の世界史的敗北」以前または同時期だったと推定される初期の物々交換でも、交換の代表者は武力に優れた男であり得たので、二人の代表者が男と女である可能性があり、二人の恋が物々交換を可能にした。

### 3. 問題2: **全運動を扱う矛盾概念**が必要だが従来の矛盾概念では対立項の生成である物々交換第1, 第2段階を扱えない

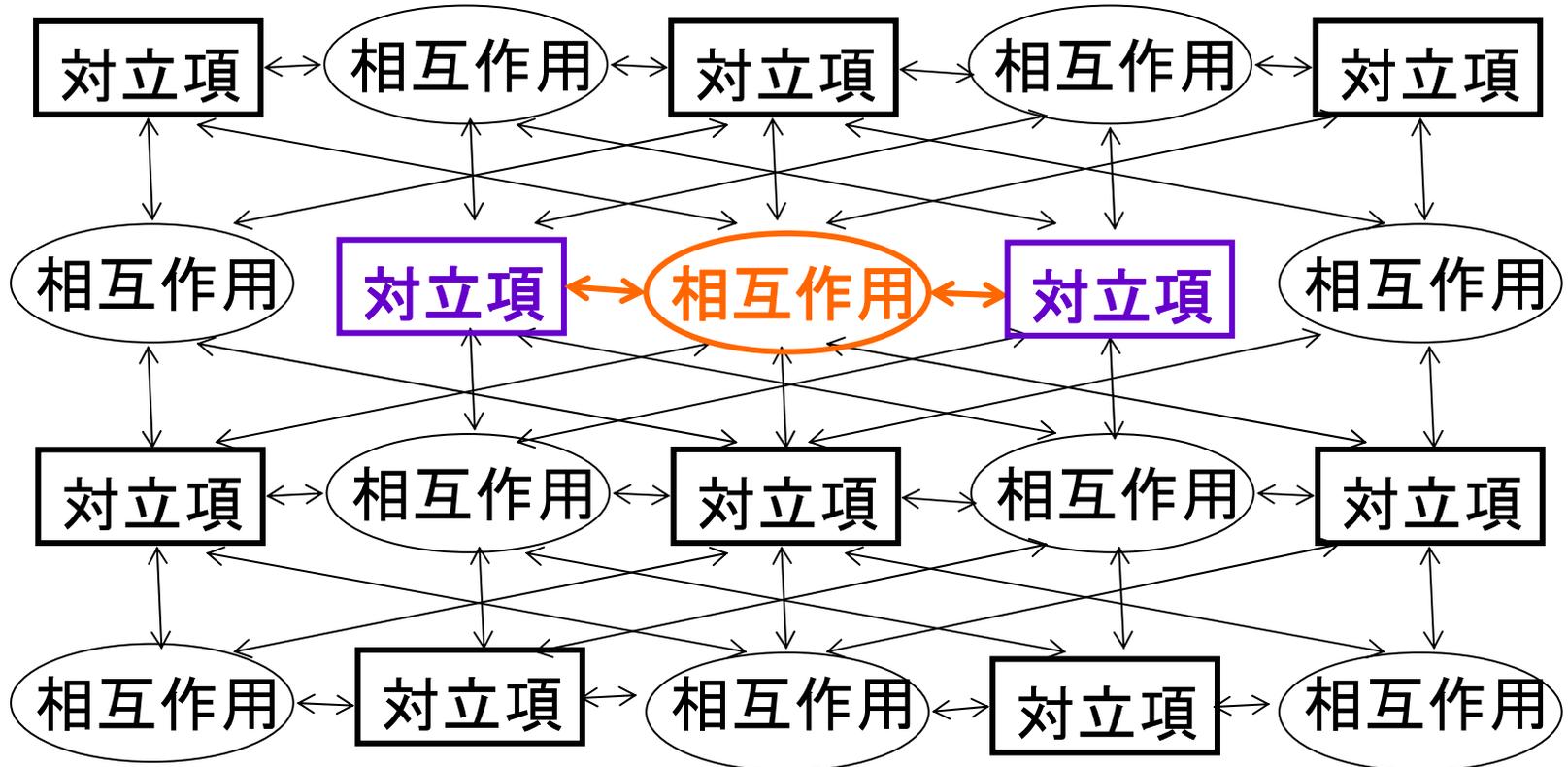
問題1. なぜ物々交換という奇蹟は起こったか？

問題2. 従来の矛盾概念では対立項の生成段階である**物々交換第1, 第2段階**を扱えない

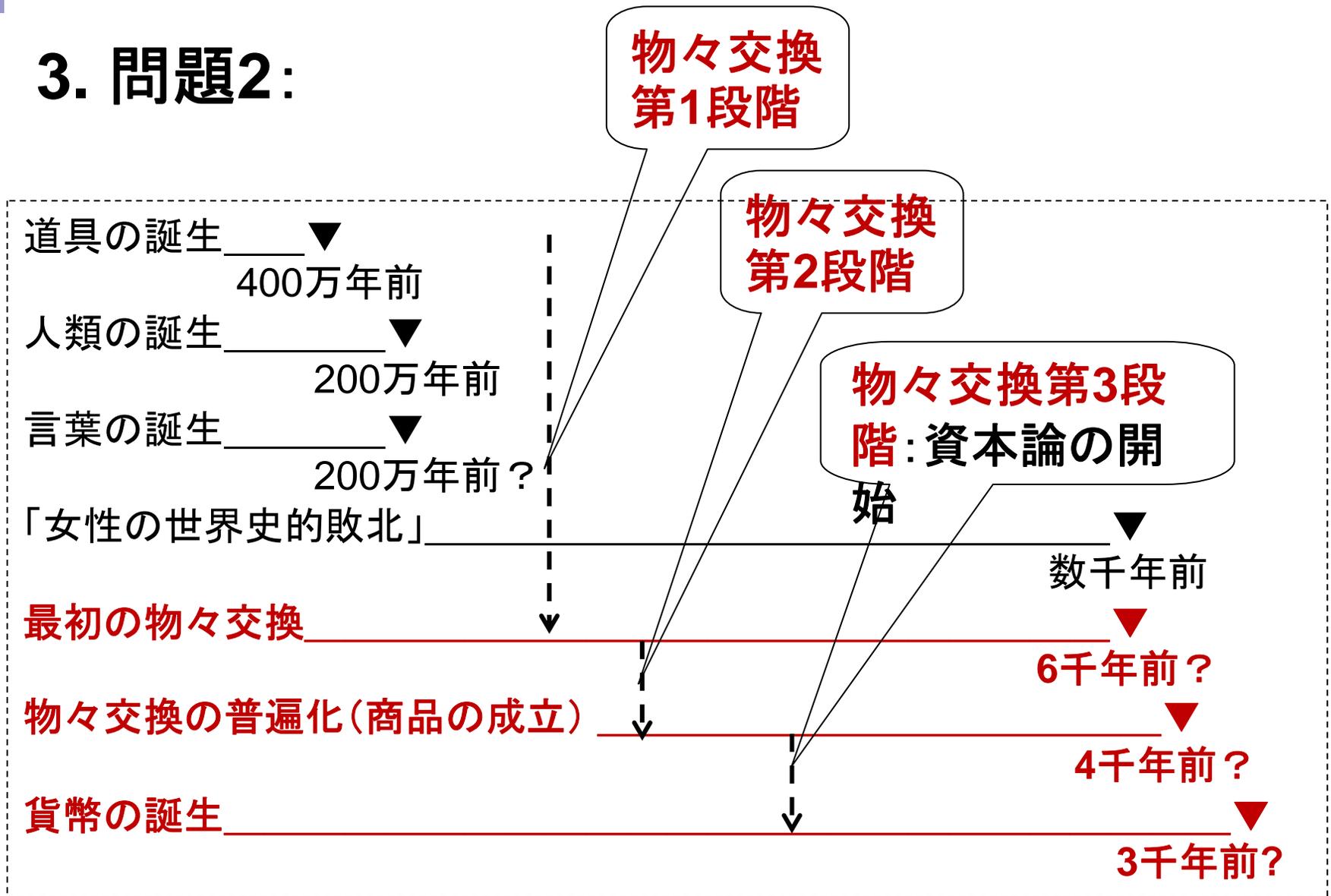
マルクスは、被交換物が、商品になっているが、貨幣はまだ生まれていない状態から資本論を始めた。つまり使用価値と(交換)価値という対立物がある前提で、自律矛盾の展開によって貨幣が誕生するまでの**物々交換第3段階**を扱うのが資本論第1部第1編第1章である。彼の矛盾概念では、対立物の生成を扱えない。

### 3. 問題2: 弁証法と矛盾概念

弁証法論理は、物事の相互関連と相互作用を扱う論理。下記はM対Nの相互作用の簡略表現。作用、**運動**はほぼ同義で、その過程の結果が**変化**。**矛盾**はM対Nの相互作用の**二項による近似単位**。**二項は二属性の場合と一属性の二値の場合がある**。「対立しつつ統一されている対立項」というような訳の分からない定義は無視(FIT2011等)



### 3. 問題2:

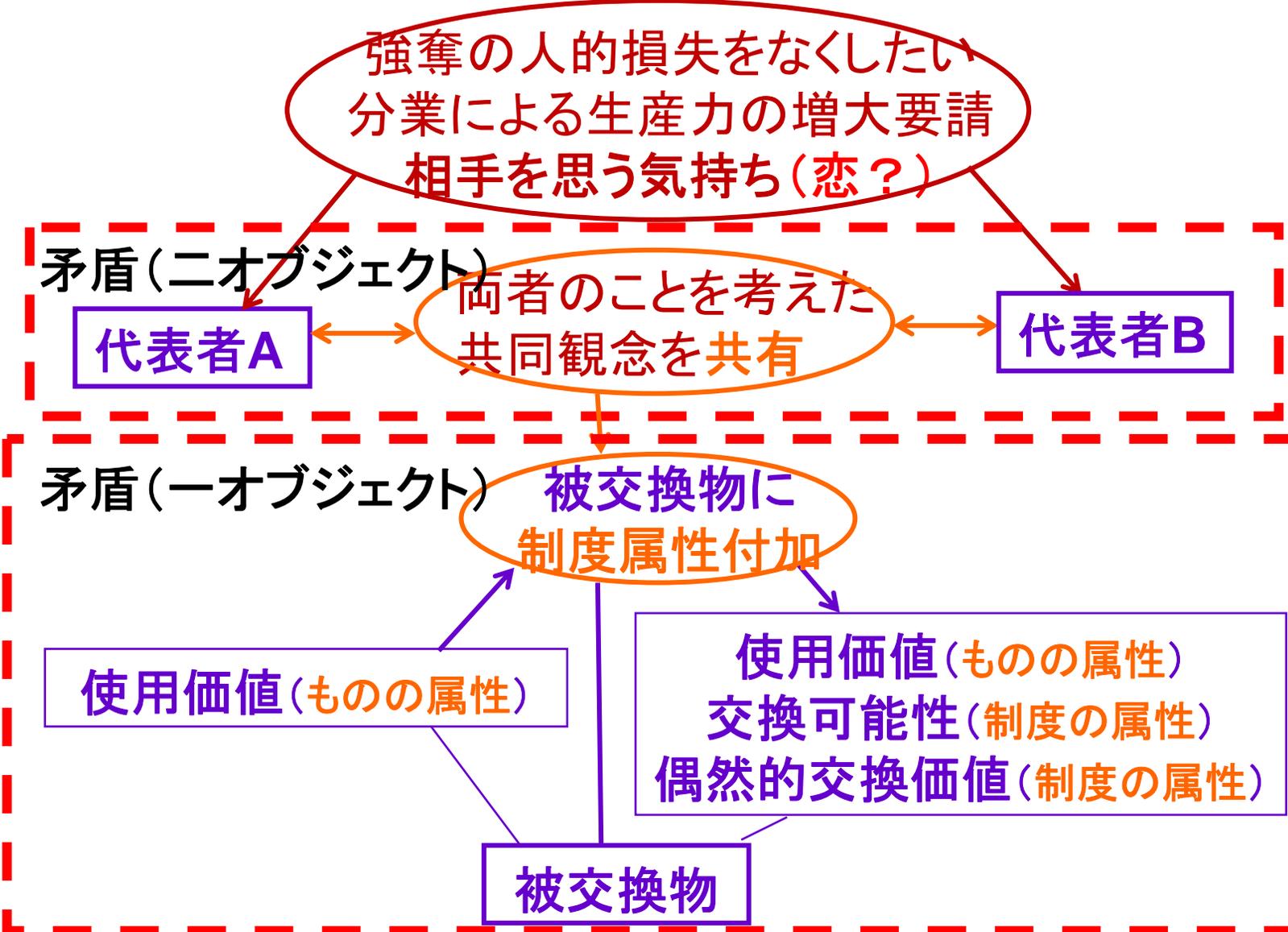


### 3. 問題2：物々交換の第一段階(最初の物々交換まで)

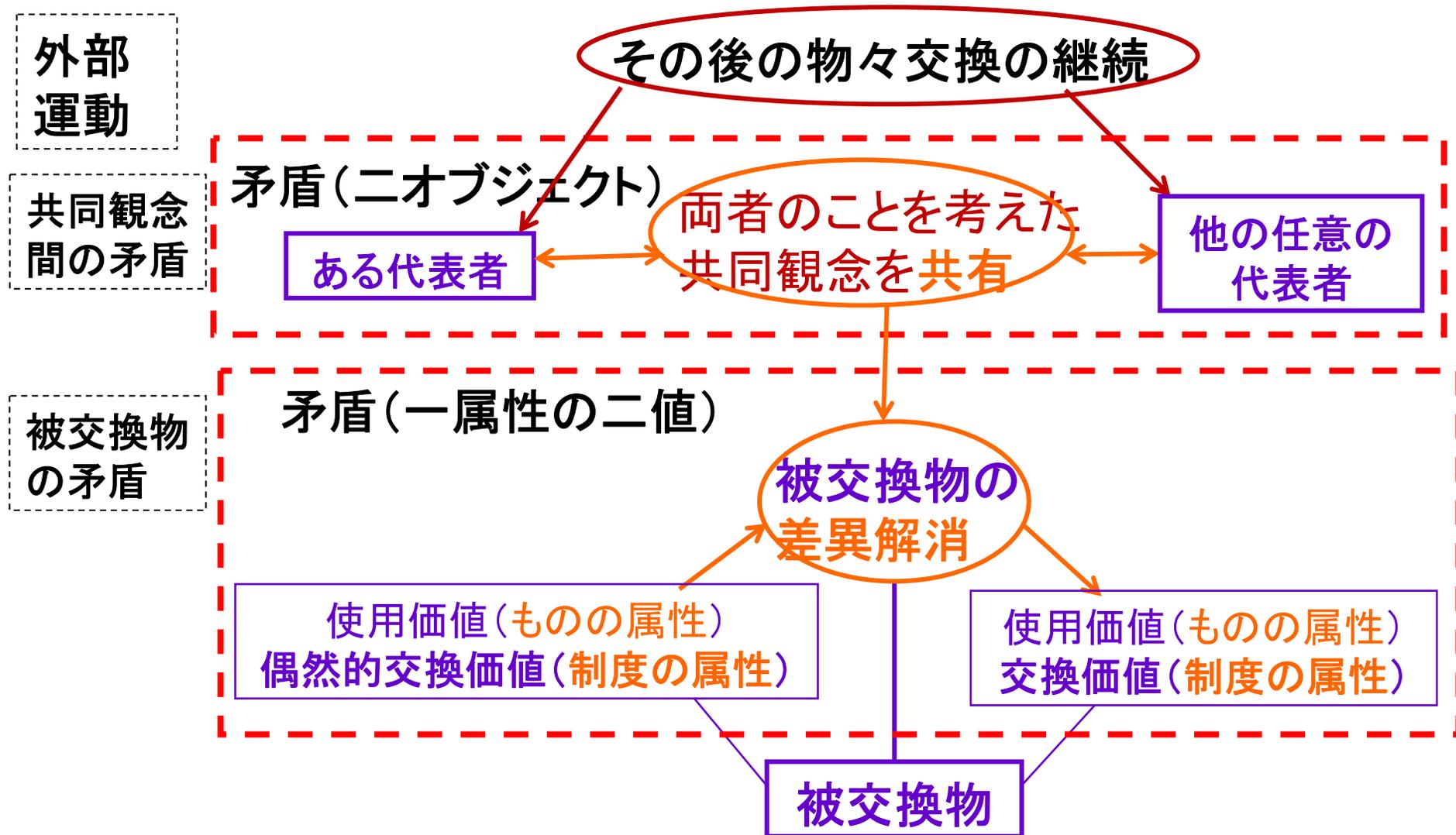
外部  
運動

共同観念  
間の矛盾

被交換物  
の矛盾



### 3. 問題2：物々交換の第二段階(継続する物々交換)



3. 問題2の解決: 提案矛盾概念: 運動を起動するまたは外部運動が生成する対立項の相互作用。全運動を扱える。

1. 2.の二属性の対立項の両立(又は共有)を作っていく矛盾 (差異解消をする3.の二値の対立項を作っていくものがあるか?)

1a. オブジェクトの生成から行う(例: 物々交換の第一段階の共同観念共有)

1b. 属性を生成する(例: 物々交換の第一段階の属性付加により、使用価値と(交換)価値の両立ができる) (例: エンジンの出力大と軽量化の両立)

両立を作るのは意図的運動(FIT2011、TS2011)または外部の力(今回)

2. 二属性の対立項が両立しながら運動する従来の矛盾: (例: 物々交換の第三段階の商品成立後の貨幣誕生過程)

3. 二値の対立項の差異解消をする矛盾 (FIT2011, TS2011): (例: 物々交換の第二段階の交換価値確定) (例: 今の室温をある温度に変える)

# 4. 結論と謝辞

## 結論

1. 従来の、矛盾への外部運動の作用の軽視と、すでにある対立項間の関係しか扱わない自律矛盾の弱点が克服される。外部運動の一つ、意図的努力はFIT2011,TS2011で扱った。今回は、外部運動のもう一つ、外部の客観的力を扱った。
2. 提案モデルにより、物々交換の成立の論理を矛盾により理解する道が開ける。これは、**全運動が扱える近似モデル**である。**より良き変化を起こすことが目的であり、変化は運動が起こすので、これにより場合に応じた変化が可能な道が拓ける。**

## 謝辞

大阪学院大学中川徹教授、榊原病院の田村健太郎外科部長、水田真司医師、高橋生医師、草地、田茂井、山内各看護師をはじめとする関係各位にお世話になった。厚く感謝申し上げます。

## 5. 参考資料：[takahara-t@m.ieice.org](mailto:takahara-t@m.ieice.org)に連絡されたし。

- [TJ2003Jun] Takahara Toshio: “Application Area of Thinking Tool or Problem Solving Tool”, The TRIZ journal, Jun.2003.
- [TS2010] 高原利生, “TRIZの理想—TRIZという生き方？その2”, 第六回TRIZシンポジウム, 2010.
- [FIT2011] 高原利生, “弁証法論理再構築”, FIT2011, 2011.
- [TS2011] 高原利生, “一体型矛盾解消のための準備的考察—生き方の論理を求めて—”, 第七回TRIZシンポジウム, 2011.